

太田市自分ごと化会議2025（第3回） 詳細議事録

- 日時: 令和7年12月20日(土) 9:00~12:00
 - 場所: 太田市役所3階 大会議室
 - 参加者: 無作為抽出市民:9名(欠席14名)
 - コーディネーター: 北海道清水町 町民生活課 参事 前田 真
 - 市関係部局: ことども課
-

1. 構想日本 加藤代表挨拶

- 行政が情報を出しても市民に伝わっていない、あるいは行政がカバーしきれていない「隙間」がある。これをすべて税金(公助)で解決しようとする则限界がある。
- 行政と市民の距離を縮め、近所付き合いや多世代交流などの「自分たちでできること」を見つけるのが「自分ごと化」である。
- 問題を放置してツケを回すと、最終的には増税や被害として自分に返ってくる。
- 今回はAI(倍速会議)を導入し、議論を可視化・整理する全国のモデルケースとしての実験も兼ねている。

2. 馬場拓也氏(社会福祉法人愛川舜寿会 代表)講演

- 神奈川県愛川町にて、特別養護老人ホームの壁を取り払うプロジェクトを実施。施設を閉鎖的な空間から、地域住民が通りがかりに利用者と挨拶を交わすことのできる「街の風景」へと変えた。
- 相模原の事件(津久井やまゆり園)に触れ、「生産性がない人には価値がない」という優生思想は高齢者や障がい者との日常的な関わりがないことが原因と仮定し、高齢者や障がい者をはじめ色々な人と日常的に関わることが重要だと提言。
- スーパーマーケットの跡地に、高齢者介護施設や放課後デイサービスなどが入った複合型施設「春日台センターセンター」を創設。障がい者就労支援として、コロッケを販売するなど、誰もが立ち寄れる場所となっている。
- 外部化(アウトソーシング)された福祉サービスの先に、家族のような関係性(第三、第四の家族)を再構築することを目指している。
- 第三の家族という意識で他者と接していったときに、本当の意味で「この町を良くしていこう」という意識が芽生えるものだと考えている。

3. 前回の振り返り（※参照：第2回会議議事概要）

4. 会議の流れの説明

● コーディネーター

- 3つのテーマで話をしてほしい。
- 1つ目は、「親と子の笑顔輝く場とは ～安心して過ごせる場づくりを考える～」。今回は馬場さんの話を聞いて、「自分たちが本当に安心できる場づくりとは何か」、「自分たちにはどういうことができるのか」という話をしていただきたい。
- 2つ目は、「子育てに本当に必要なサービスとは ～施策の優先順位を考える～」。無償化はとても助かるが、一律で無償化するのではなく、負担の度合いにグラデーションをつけるべきだという意見があった。「日常の豊かさ」と「命の安心」を同じ無償化で括るのではなく、どの施策の優先順位が高いか、話していただきたい。
- 3つ目は、「情報共有のあり方について ～誰ひとり取り残されない仕組みを考える～」。広報面の問題（知りたいのに情報が届いていない人がいるのではないか）、広聴面の問題（市民の声が届いていないのではないか）、市民同士での情報共有について話をしていただきたい。

5. 議論

- グループごとに、倍速会議を利用しながら協議
- 馬場さんが各班の議論に参加しながら、話題提供を行う

● 親と子の笑顔輝く場とは ～安心して過ごせる場づくりを考える～

1 班の主な意見

- 馬場さんの話を聞いて何を感じたか、あるいは新たな気づきはあったか
 - ・施設は「関係者以外立ち入り禁止」という閉鎖的なイメージが強いが、物理的に壁をなくすことで「街の風景」の一部になるという発想が画期的。
 - ・建物が高層化したりすると、人間関係は希薄になると思う。フラットな位置関係で過ごせると人間関係が深まるのではないか。
- 自分たちが100万円あったら場づくりにどういったお金を使うか
 - ・商業施設など、出かけた先で電源が欲しい。子どもの吸引機を蓄電池付きで持ち歩いているが重い。電源をどこかで確保できたらと思うことが多い。
 - ・防犯の旗が立っている家にはいつでも駆け込んでよいという取り組みがある。電源もそういうサービスがあるといいかもしれない。
 - ・「これが欲しい」と考えた事がないが、強いて言うなら街灯が欲しい。田舎なので暗い。

・地区ごとに10万円を配り、地域の子供がいる家庭を集め、競い合うような企画を催し、1位の方に10万円をあげる。または謎解きのような協力し合うイベントを行う。年に1回程行えば、交流が生まれ、地域の人同士で話すきっかけになるのではないかな。

■ もし自分の子供が中学生になったらどういふ放課後を過ごさせたいか

- ・宿題をやってほしい。今は親が添削をしないとイケない。面倒くさいし、宿題を添削できる自信もない。
- ・ゲームをするより外で遊んでほしい。
- ・学校は閉鎖的な部分があるので、地域の方たちにもっと入ってもらいたい。学校が公民館機能を兼ねて、子供と色々な世代が交流できるような場になると良いのではないかな。

2班の主な意見

■ 馬場さんの話を聞いて何を感じたか、あるいは新たな気づきはあったか

- ・子供から高齢者が一緒に過ごす場所があるのはとてもいい。高齢者にとっても、子供にとっても、人生経験としてよい場所である。最近ではスマホに依存する人が増えているから人と関わる事が減っていると思った。
- ・私の近所の老人ホームはセキュリティが厳しく、外部の人が一切入れない。固い、冷たい空気がするので、近寄れない。(馬場さんが話したように)温かみがあって、テラスのようになっていると地域の人も関わりやすい。お年寄りも良い刺激になるし、地域の人もお年寄りと関われる。
- ・システム作りがうまい。自分の職場である学校や保育施設も福祉と同様閉鎖的になりがちな場所なので、それをあえてオープンにするということが課題を解決するヒントになりそう。

■ 自分たちが100万円あったら場づくりにどういったお金を使うか

- ・特定の人が集まる場ではなく、どんな人でも使える場の方が色々な知識の交流にもなる。
- ・駄菓子屋が最近ではあまりないから、子どものたまり場になるような場所が欲しい。小学校低学年の子供は遠くのショッピングモールには行けないが、駄菓子屋には行ける。1年生から6年生までが集まれる場所になるのではないかな。
- ・幼稚園の近くの公園には子供やお母さんがたくさんいる。そこに駄菓子屋があれば、公園で遊んで、喉が乾いたら駄菓子屋に行ってお菓子を買って、公園でまた遊ぶというサイクルが作れるのではないかな。
- ・学校の先生がガツンと言えないことも、駄菓子屋の親父だったら許される。地域の教育的要素になる。
- ・児童館に100円でコーヒーを飲める場所をつくる。お父さんもお母さんもコーヒーを飲めれば、人が集まって話をする場になるのではないかな。

- ・ 行政サービスが届きたい人に届いていないように、場づくりをしたとしても人が集まらない可能性もあるので、人の目に止まる工夫ができると良い。

● 子育てに本当に必要なサービスとは ～施策の優先順位を考える～

1 班の主な意見

■ 無償化施策の優先順位について

- ・ おむつのサブスクの優先順位は高くない。医療費については、たくさん病院に行く人と全然行かない人がいるから一概には語りにくい。
- ・ 義務教育かどうかで分けるのが良いのではないか。義務教育は無償だが、保育料は義務ではないから無償ではなくていい。預けたい人とそうでない人がいる。給食費は義務教育の小中学校のことを指していると思うので無償化。高校の医療費まで無償にすることはどうなのかと思う。小中学校であれば理解できる。

■ 給食費の無償化について

- ・ 給食費は日割りにするとかなり安いし、子供のご飯のお金を親が払うのは、当たり前のことだと思うので優先順位は低いのではないか。
- ・ 地産地消の給食を「食育」という形で「家庭科の授業」の一環としてやるなら、その授業料として負担することに抵抗はない。
- ・ 給食はおいしかった。太田市の自校方式の給食は本当に恵まれていると思う。
- ・ 給食は無償化派ではない。家庭で2000円程負担して美味しいご飯が出てくるなら、それくらい出してもいい。

■ 保育料の無償化について

- ・ 共働きが進んでいる現代で保育は必要だと思う。優先順位は高い。
- ・ 給料が低いので保育料が有償化するとつらい。
- ・ 保育施設の人件費や維持管理費、事業運営費をどこで賄うのかという話になると、サービス受けている人が賄うべきなのではないかという論点になってしまう。

■ 病院の受診について

- ・ 取り返しがつかないことになる可能性もあるので、素人判断で「これくらいなら大丈夫だろう」と受診を控えることはあまりしない方が良い。
- ・ 有識者の言葉やAIなどがあれば受診の回数を減らせるかもしれないが、素人の判断は危険である。

2班の主な意見

■ 無償化施策の優先順位について

- ・ 医療費はどの世代にも関わりがあるので、一番優先順位が高いのではないか。
- ・ 子供が本当に受診したい時に病院が混んでいて受診できない。だから逆に有償化して、他に回すのはどうか。

■ 給食費の無償化について

- ・ 貧しい人たちがいると思うので、給食費は無料のままのほうがいい。有償で払えないと、その子供が差別されたと思ってしまう。給食費は無料のまま皆一緒の環境を作るべき。
- ・ 給食費が自己負担だった頃、払わない親がかなり出てきて、先生たちは、普段の業務がある中で面倒くさい仕事が増えていたと認識している。

■ おむつ使い放題について

- ・ 子供がいないので、どのくらいおむつ代がかかるのかよくわからない。
- ・ 自分は子供がいるが、おむつ代はそこまで負担にはなっていない印象。
- ・ (事務局より) おむつ使い放題は保育園に行ってる子どもだけ。家で使ってるおむつが対象ではなくて、保育園で預けてる人が毎日持って行っていたおむつが保育園の中で使い放題となるもの。

● 情報共有のあり方について ~誰ひとり取り残されない仕組みを考える~

1班の主な意見

■ 広報のあり方について

- ・ 広報がとても見づらい。PDFは拡大しないと読めない。
- ・ 画面サイズに合わせて文字が大きくなるサイトもある。拡大を前提としたページではなくて、画面サイズに合わせた作り方をしたい。
- ・ 情報量が多すぎるのが原因かもしれない。広報に書いてあることは大体ホームページに書いてあるので、先にホームページを検索したほうが良い。

■ 市民から行政への声の届け方について

- ・ 「市長へのメール」を送ったことがある。返信を希望するかチェックできるが、希望しないを選んだ場合、本当に読んでもらえたか、どう処理されたのかが見えないので、不安になった。
- ・ 行政側は苦情を恐れるあまり、情報を網羅しようとしすぎて、結果的に分かりづらくなっている。市民側が「この程度の説明で良い」と許容することも大事。

2班の主な意見

■ 情報発信の方法について

- ・ 自分が情報を必要としない限り目に入らないので難しい問題。
- ・ 自己責任ではないか。本当に必要と思えば自ら情報を取りに行く。
- ・ 受け身でなく、自ら知りに行く姿勢が大事。知ってる人だけが得をするということも悪いことじゃないと思う。その人たちは困っているからそれを必要としているわけなので、抜け駆けをしてサービスを利用しているわけではない。悪いことではないのに、情報を取りに行く行為を悪いことかのように言うのは少し違うと思う。
- ・ ただし、高齢者など、自分で情報を取りに行けない人に対するケアは大事だと思う。

6. 改善提案シートの記入

7. 総括・事務連絡

● コーディネーター

- 皆さんへの宿題として、「街歩き」をしてほしい。例えば、今日出た「公園の片隅に医療的ケア児のための電源もWiFiもあるコンテナカフェをつくる（駄菓子屋機能付き）」のようなアイデアを実現するなら、どの公園がいいか、どんな課題があるか。実際に歩いて見てほしい。
- 次回は市役所に向けた提案書をまとめる回になる。皆さんが街歩きをした結果を基に倍速会議を使い、市の施策にどうやって皆さんの声を反映させるか、形にしていきたい。

● 事務局

- 次回日程の確認と改めて出欠確認の郵便を送付する旨を連絡。